

組織目標評価報告書（令和 6 年度）

部局名：農学部		学域名：環境生命自然科学学域（農）	部局長名：一瀬勇規
目 標 ・ 取 組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)	
①教育領域	関連する 中期計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等	
【入学者選抜の検証と円滑な高大接続】入学者選抜の検証を踏まえ、岡山県内外の高校との連携を深めることで、求める人材の確保に向け、一般選抜前期日程および学校推薦型選抜において引き続き志願倍率2.0倍以上を維持する。 【グローバルに活躍できる次世代リーダーの育成と入学前教育】「地域創生を先導する国際創農プログラム(INAF)」への国費留学生6名を受入れ、DX活用による海外選抜実施を継続する。国費留学生6名については入学前教育を着実に行う。 【社会ニーズと将来構想に基づくカリキュラム改革】気候変動・ネイチャーポジティブに対応した環境再生や、食糧安全保障強化などの社会ニーズを踏まえた上で、岡山大学としての特色を活かした人材養成を行うことができるカリキュラムを開発する。 【SDGsを通したリーダーシップや社会課題解決能力の獲得】「地域活性化システム論」、「農家体験実習」、「地域農業活性化実践論」、「岡山大学×真庭市 SDGsを目指す産業体験講座」、「日本農業論Ⅰ、Ⅱ」などの科目を開講し、リーダーシップ教育および実践型社会連携教育を推進する。	(2-2) (7-1) (2-1)	【入学者選抜の検証と円滑な高大接続】学校推薦型選抜と一般選抜それぞれで志願者倍率2.7倍、2.8倍を達成した。例年行なっている高校訪問、大学訪問に対する対応、オープンキャンパスの他、令和8年度からの入学定員増に向け、高校側のニーズを確認するために県内普通科高校6校を訪問し、アンケート調査を行った。また、志願実績のある県内農業高校に対してもアンケート調査を行った。その結果、学びの幅を広げるといふ農学部が目指す方向が支持されていることを確認した。入学定員増加の方向が決まったので、引き続き岡山県内外の高校に対し、情報提供を行い、志願倍率2.0倍以上を維持する。 【グローバルに活躍できる次世代リーダーの育成と入学前教育】タイ国カセサート大学と協働して夏季短期海外研修を行い、他学部を含む岡大生を派遣するとともに、カセサート大生9名を海外インターンシップ生として受け入れて、多文化共修を実践した。INAFにおいて国費留学生6名を受入れ、半年間の入学前教育を実施している。現在、農学部には国費留学生が17名(学部生11名、研究生6名)が在籍している。また、学校推薦型選抜募集方法Aにおいて合格し、入学手続きを完了した学生に対しオンラインでの入学前教育を実施した。 【社会ニーズと将来構想に基づくカリキュラム改革】R8年度からの入学定員増加に合わせ、学科名を「総合農薬科学科」からより適切な「農学科」に変更するとともに、現在の4コース制から5プログラム制にカリキュラム改革を行うこととした。 【SDGsを通したリーダーシップや社会課題解決能力の獲得】目標・取組に掲げた授業を実施した。「地域活性化システム論」、「地域農業活性化実践論」、「岡山大学×真庭市 SDGsを目指す産業体験講座」については、他学部からの受講もあり、農学部にとどまらず、全学的なリーダーシップ教育や社会課題解決能力の養成に寄与した。	
②研究領域	関連する 中期計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等	
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等	
【山陽圏フィールド科学センターの生産物の販売】 山陽圏フィールド科学センターの生産物の販売を所内の販売所等で行うことで、大学職員、学生のみならず地域住民にも、実際に栽培している箇所がみえるところで生産された新鮮で安心な農産物を提供する。 【グッドジョブセンターとの連携】 山陽圏フィールド科学センターの生産物販売に関してはグッドジョブセンターとの連携を強化し、「農業による福祉的雇用の促進」、「福祉的農業の確立」に関して取り組みをすすめる。 【公開シンポジウム開催】 農学部主催の公開シンポジウムを開催し、一般市民が農学の実態を理解できる場を提供し、大学と学外の方が意見交換できる機会を設ける。 【公開講座の開催】 農学部主催の公開講座を開催し、一般市民に対して農学を体験できる機会を提供し、農業に関心のある方々への技術・情報提供をおこなう。 【地域連携】 共創の場等のプロジェクトを活用して果樹等の生産者との連携をはかる。		【山陽圏フィールド科学センターの生産物の販売】 山陽圏フィールド科学センターの生産物は、所内の販売所、近隣のスーパーマーケット等で販売していたが、本年は岡山大学病院においても販売を開始し、好評を得た。 【グッドジョブセンターとの連携】 これまで通り、山陽圏フィールド科学センターの生産物販売の一部を担当していただいた。販売所では2次元バーコード決済(paypay)を導入し、就労環境の改善につとめた。 【公開シンポジウム開催】10月19日に第23回農学部公開シンポジウム「ネイチャーネガティブからネイチャーポジティブへ農学が変える？」を開催し、4名の講師による講演の後、活発な討論が行われた。合計76名の参加があった。また、中国四国農政局と共催で「食料安全保障シンポジウム」を開催し、243名が参加した。 【公開講座の開催】農学部主催で公開講座「世界のイネを比べてみよう」(8/24)を、フィールドサイエンスセンター主催で「育てて食べようおいしい夏野菜―家庭菜園のツボ2024―」(4/10～9/4)と「ビオネづくり名人をめざそう」(6/1、6/29、9/28)を開催し、一般市民に対し農学を体験できる機会を提供した。 【地域連携】共創の場等のプロジェクトを活用して、大型ロボットが農作業を支援する実証実験を岡山大学農場で実施した。久米南町での果樹栽培にも展開している。	
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等	
【産官学連携の推進】産官学連携による共育共創活動ができる教員を増やすため、産官学連携による成果発表会等で若手研究者の成果発表会の機会設置に取り組む。 【女性教員割合の増加に向けた取組】令和10年度の女性教員割合の達成に向けて、上位職教員数を増加させるため、上位流用制度を利用した昇任人事を進める。その他の女性教員については、キャリアパスの見直しを明確にするとともに、支援の体制を構築する。 【広報活動の強化】農学部の広報活動を高めるため、広報ワーキンググループを設置し、構成員に対する広報活動情報の共有と積極的な広報活動に取り組む。 【就学・就業環境の向上】ハラスメントの再発防止を含め、心理的安全性を担保しながら組織としての創造性の向上に取組む。	(1-1)	【産官学連携の推進】 中国四国農政局との共催で、「食料安全保障シンポジウム」(7/3)を開催した。また、岡山県畜産研究所との合同研究成果発表会(12/11)を実施した。また、岡山県農業研究所の成果検討会(3/12-13)に参加した。 【女性教員割合の増加に向けた取組】 R6年度は4月に1名のWTT助教を、10月に講師として新任女性教員を迎えた。また、R7年1月には上位流用制度により2名の女性教員が教授に昇任した。現時点の女性教員率は20.6%であり、着実に増加している。 【広報活動の強化】 広報委員会の傘下に「学生広報アンバサダー」を組織し、学生目線での情報発信を開始した。R7年度は更に活動を強化してい。R7年度はR8年度からの入学定員増加を周知させるため、HP、パンフレット等を刷新し、高校訪問も積極的に実施する。 【就学・就業環境の向上】 従来から修学環境の向上のために設置されている学生会の意見箱に加え、ハラスメント防止等のための相談窓口がわかりやすいように改善することとした。	

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5～1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。